100円からのCD批評 VOL.1

マークポイント	＜評価＞
●	安くても買って損した
●●	どうでも良い
●●●	まあ、いいんじゃな～い
●●●●	かなり満足できた
●●●●●	非常に満足、してやったり！

＜1＞

・Sergio Salvatore 「枯葉；TUNE UP」 300円 {GRP/1994年発売国内版}　柏にて

93年当時、たかだか13歳のピアニストデビューという事で、一躍ガキンチョのテクニックが話題になったCD。チック・コリア、ランディ・ブレッカー、ゲイリー・バートンら錚々たる共演者のサポートもあり、どの曲もオトナのジャズミュージシャンのプレイと同格なのが驚く。W・ショーターの[FOOTPRINTS]、パーカーの[AU PRIVARE]マイルスのタイトル曲などの馴染み深いナンバーがやはり聴き応えアリ。一応「スイングジャーナル」の選定ゴールドディスクだそうです…。どうにもテクニックにばかり注目がいってしまいがちだが、ソロピアノもまあ悪くはないし、その後あまり話題になっていないけれど、もう20歳くらいのジャズミュージシャンになっている筈で、ウイントン・マルサリスデビュー当時くらいの活動を続けていて欲しいものだが、あいにく当方不勉強で現在の活動状況は不明…。

満足度／●●●●　（購入日：2000.10.）

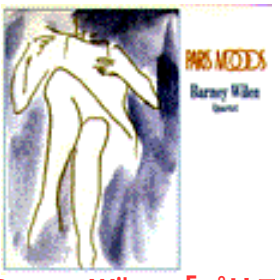
＜2＞

Arturo Sandoval [HOT HOUSE] 300円 {ENCODED/1998年発売輸入版}　柏にて

昔イラケレのメンバーで、現在アメリカで活動しているトランペッター。ゲストメンバーは、マイケル・ブレッカー、パティ・オースチン、ティト・プエンテなど。例によってビッグバンド形式でラテンジャズをやっているので、私好みで購入。中でもマンボキング、プエンテのオマージュたる「TITO」（勿論、ティト・プエンテ参加）やタイトルチューンなどはイカシテマス！[MAM-BOP]もマンボフレーバー一杯で、思わず腰を動かしてしまいそうで、こういう単純なのが好き！なお、オモロイ事にあのフィル・ラモーンがプロデューサーでした。　ラテンジャズは、大体中味があるパターンを踏襲して構成されるのが常で、その存在価値をはなから理解してやって聞かないと成立しない。だから許してやって！

満足度／●●●●　（購入日：2000.12.23）

＜3＞



Barney Wilen 「パリス・ムード；PARIS MOODS」 192円 {ALFA/1990年発売国内盤} 秋葉原にて

アルファジャズレーベルらしく、おつに澄ましたバブリーなジャズ企画もの（日本の企画）だが、それなりにイケてるアルバム。　不勉強でこのバルネ・ウィランなるミュージシャンの存在をちーとも知らなかったが、何やら50年代のフランスジャズ界で活躍していて、『死刑台のエレベーター』のサントラでマイルスとも共演していたそうな。サイドミュージシャンでピアノのジャッキーテラソンは全然でしゃばらずに中々センスの良いバックアップをみせている。選曲がパリをテーマにしたものが多く、50年代のパリ～カルチェラタンというお題目があって、その辺がおフランスしてるのが気持ち悪いが、この人のテナーの音色は変な風に臭くないのが良い。ジャケのイラストやらタイトルのつけ方は、ちょっとバブル華やかな時代のＯＬ達に向けたジャズラウンジ向きの体裁がアリアリで不満！しかし、50年代のヌーベルヴァーグやフィルム・ノアールに関心がある人には、味わい深い基調がある。満足度／●●●　（購入日：2001.1.15）

＜4＞

Dave Grusin 「マイグレーション；MIGRATION」 280円 {GRP/1989年発売日本盤} 柏にて

このところ少しご無沙汰気味のデイブ･グルーシンの旧作。フュージョン華やかなりし頃、リトナーと並んでのフュージョンセッションLPは、かなりいれあげて買いまくったものである。1曲目から例によってブラジルフレーバーの[PUNTA DEL SOL]、リズムをグルーシン独特のメロディラインにまぶせる常套手段は相変わらずなので、マーカス・ミラーが活躍する[TKO]など安定したフュージョンの落とし所は踏まえられてる。パーソネル中、変わってるのがヒュー・マサケラ。アフリカのトランペッターでソロアルバムも何枚かある人なのだが、おそらく弟ドン・グルーシンあたりの交遊関係からのサジェスチョンかも知れない。それとレッドフォードが監督した映画「ミラグロ」のサントラが入ってます（この映画のヴィデオを持ってるが、まあ評判ほどの作品とは思えないけれど）。昔からサントラとは縁の深いグルーシンで、映画音楽然としているのが気になるのではあるが……。 満足度／●●●　（購入日：2000.12.23）

＜5＞

Ellis & Branford Marsalis 「愛しき女へ～スタンダード・バラード集；LOVED ONE」 500円 {CBS/1996年発売　国内盤新品}　　松戸にて

　親子共演のデュオアルバム。アルバムコンセプトは、女性の名前をテーマタイトルに持つスタンダードをデュオ、またはピアノソロによってリラックスしながら演奏している。選曲センスが良く、馴染みのある曲目と通好みな渋めのものとをバランス良く配置し、シンプルだからといっても間延びさせるような雰囲気ではなく聴き込めるもの。　ブランフォードは、父エリスをバックアップする事に徹していて、ソプラノサックスでも静かに歌い上げているのが好印象。エリス・マルサリスという人は決してバリバリ弾く感じのミュージシャンではなく、どちらかというと不器用、無愛想なピアノのようだが、その辺にこの老ミュージシャンの人柄が出ていて、アルバムコンセプトとマッチしている。 満足度／●●●　　（購入日：2000.12.23）